

実践のまとめ（第6学年 社会科）

令和3年10月29日

指導者 三条市立栄中央小学校
教諭 阿部 秀司

1 研究テーマ

**社会的な見方・考え方を働かせ、自分の考えをもつことができる児童の育成
～当事者性（自分事）を意識した歴史学習を通して～**

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年3月告示）では、社会的な見方・考え方を働かせて、社会的な事象の特色や相互関係、意味を多角的に考えることが重視されている。

これまでの自分の授業を振り返ってみると、視覚的な資料を多く取り入れたり、抽象的な事象に対して身近な事象に置き換えて説明したりしてきた。その中で、児童が「社会的な見方・考え方」を働かせた学習となっていたかと考えると疑問が残る。実際の授業では、思うように自分の考えを持つことができず、ただ説明を聞いているだけの児童もいた。そこで、児童が社会的な見方・考え方を働かせ、問いを設け、自分の考えをもつことができれば、主体的・対話的で深い学びにつながるのではないかと考えた。

(2) 研究テーマに迫るために

① 社会的な見方・考え方を働かせるための問いの工夫

社会的な見方・考え方を「働かせる」とは、地理的な視点、歴史的な視点、関係的な視点に着目して「問い」を設け、比較や分類、関係づけ等の思考を経て、社会的な事象の様子や仕組みなどを捉えることである（宗實 2021）。つまり、児童が何に着目して、どのような「問い」を設け、どのように考えるかということである。視点をきちんと定めることで、児童は社会的な事象が具体的に見えるようになり、考えるべきところに焦点が当てられる。そして、自分の考えをもつことができるようになる。

② 当事者性（自分事）を意識した歴史学習

歴史学習では「我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること」「世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の発展を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること」が求められている。

歴史を学ぶ意味は、学習の最初に「温故知新」を示しながら児童と確認をした。しかし、数百年までの出来事を捉え、考え、理解することは児童にとって容易なことではない。そこで、意識させたいことが「当事者性（自分事）」である。歴史を自分事として捉え、今に生きる糧として学ぶことができれば、社会を生きていく上での有効な学びになる（長瀬2021）。

歴史上の主な事象を「当事者性（自分事）」を意識して捉えらせる方法は以下のようなものが考えられる。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・児童が暮らす地域（まち）と関連付ける（歴史、人物、暮らし、文化遺産など）・「もし自分が～の立場なら」と歴史上の人物の立場になって考えさせる |
|---|

これらの方法を用いることで、社会的な見方・考え方がよりスムーズに働き、歴史的な事象を的確にとらえ、深く理解できる。そのために、教師の教材研究は必須である。

(3) 研究テーマにかかわる評価

次の2つの観点から評価を行う。

- ① 学習問題に対して、考えをノート等を書くことができた児童が90%以上になる。
(観察、ノート)
- ② 考えの理由を示す際に、社会的な見方・考え方が働いている児童が80%以上になる。
(観察、ノート、発言、振り返り 等)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

新しい文化と学問（小学社会 6 教育出版）

(2) 単元の目標

江戸時代の人々の暮らし・文化・教育について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して遺跡や文化財、地図や年表などの資料を調べ、歴史上の主な事象を捉え、歴史の展開を考えるとともに歴史を学ぶ意味を考え、表現することを通して、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解できるようにする。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 世の中の様子、人々の働きや代表的な文化遺産などについて、絵画資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、江戸時代の代表的な文化財や国学や蘭学の特徴を理解している。 調べたことを年表や図表にまとめ、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化財などに着目して、問いを見出し、江戸時代の文化や学問について考え、表現している。 江戸時代の代表的な文化財や学問、当時の社会の様子を関連付けたり総合したりして、江戸時代の文化や学問の特徴を考え、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の暮らし・文化・教育について予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 学習したことをもとに長い歴史を経て築かれた日本の伝統や文化と今日の自分たちの生活とのかかわりを考えようとしている。

(4) 単元と児童

① 単元について

本単元は、学習指導要領の第6学年社会科の内容（2）ア（ク）「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解すること。」を受けている。

本単元の主な教材は「江戸時代の文化や教育」である。江戸時代になり、戦もなくなり、社会が安定していた。人々が力をつけて都市が発展していく中で、歌舞伎や浮世絵などの新たな文化や、国学や蘭学などの新しい学問が生み出されていく。単元では、「町人」の視点から、文化の繁栄を調べ、考え、表現していく。その際、児童の生活にかかわる「もの・こと・ひと」を取り上げながら、「当事者性（自分事）」として歴史を捉えられるようにしていく。例えば、教育についてみていくと、江戸時代は「寺子屋 - 町人・農民」「藩校 - 武士」「私塾 - 自由な学校」があり、寺子屋が現在の小学校や中学校の原型になっていたり、藩校の名前が高校の名前になっていたり、私塾は英会話教室・音楽教室のようなものだったりということを捉えていく。また、このような町人文化の発展が、産業や交通の発展によってもたらされたことを資料や既習事項をもとに考える。

② 児童の実態（6年1組：男子9名 女子13名）

社会科（歴史学習）の事前学習アンケート（6月実施）の結果は次の通りあった。

1 歴史学習は楽しみですか？

回答	割合（人数）	主な理由
楽しみだ	75%（17名）	新しいことが学べるから どの時代にどんな出来事があったのか いろいろな歴史の人物を知るのが楽しみだから
楽しみではない	25%（5名）	難しいイメージがある そんなに好きではないし、難しそう

1の結果をみると、歴史学習に対して前向きな回答が多かった。

2 歴史のことで知っているもの・こと・ひと

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、卑弥呼、ペリー、本能寺の変、上杉謙信、坂本龍馬など

3 なぜ、歴史の学習をするのでしょうか？

- ・日本の歴史を知って、現代までどうやって変わっていったのかを学ぶため
- ・日本の昔の出来事を学んで、よりよい方法で今後の生活に活かすため
- ・昔の人がしてきたことを知って、自分のこれからにつなげるため
- ・昔のことを知って、自分たちで歴史を解明するため

3の結果から、歴史を学ぶ意義をしっかりと捉えていることが伺える。

授業では、手を挙げて発言する児童は限られている。しかし、ノートを見ていると、自分の考えを持って授業に参加している児童は多い。もう少し意見交流と練り直しの時間があるとよいのではないかと考え、1学期はタブレットを用いて意見を可視化して様々な考えに触れるようにした。実際にタブレットを活用すると、入力に時間がかかったり、入力した内容が全体にうまく反映されなかったりすることもあった。そこで、タブレットだけではなく、「ホワイトボード」や「思考ツール」なども活用して、主体的に取り組む児童を育成していこうと考えた。

(5) 単元の指導計画と評価計画 (全6時間、本時1/6時間)

時数	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法 (評価方法は【 】内で記述する。)
1 本時	・流通網（交通網）の整備・発達により、もの行き来が盛んになる	◎江戸時代では、ものや人が効率よく移動するために、どうしたのか話し合う	知技 流通網（交通網）が整備・発達し、ものや人の行き来が盛んになったことを理解している【発言・ノート】
◎江戸時代、ものや人の行き来が盛んになり、人々の生活はどう変化したのか？			
2	・江戸時代には、歌舞伎や浮世絵などが生み出され、人々の人気を得た	◎江戸時代の人々の楽しみ（娯楽）は何だったのか調べる	知技 江戸時代に生まれた文化の特徴を、時代背景と関連付けて捉えている【発言・ノート】
3	・産業の発展により、人々の生活が大きく変わってきた	◎耕地面積が大きく増加したのはなぜか考える	知技 産業が発展したことで人々の生活が豊かになったことを捉えている【発言・ノート】
4	・江戸時代には蘭学や国学などの新しい学問がおこった	◎詳しく体の中のしくみが分かるようになったのはなぜか調べる	知技 江戸時代におこった学問の特徴をとらえている【発言・ノート】
5	・江戸時代には、寺子屋、藩校、私塾がつけられ、教育が広がっていった ・幕府の飢饉や外国への対応に対して人々の不満が高まった	◎江戸時代の子どもたちは教育を受けていたのか調べる ◎江戸時代に生まれた文化や学問は、社会にどのような影響をおよぼしたのか話し合う	知技 江戸時代の町人による文化や新しい学問が広まったことを理解している【発言・ノート】 思判表 江戸時代に生まれた文化や学問について社会の変化と関連付けて考え、表現している【発言・ノート】
6	・江戸時代の人々の生活の変化、文化、学問をまとめる	◎スライドにまとめる	思判表 江戸時代の人々の変化、それにもなつて生まれた文化や学問についてまとめることができる【スライド】

4 本時の展開

(1) ねらい

金物の材料である「玉鋼」や三条で作られた和釘を、効率よく運搬するための方法に着目し、地図帳などをもとに考えることを通して、流通網（交通網）が発達し、ひと・もの・情報の行き来が盛んになったことを理解する。

(2) 展開の構想

本時では、陸路・海路などの交通網が発達し、流通（ひと・もの）が盛んになり、人々の生活は変わったことを捉えさせる。

当事者性（自分事）を意識させるために、「金物の町 三条」を取り上げる。児童は、4年生の時に和釘づくりを体験したり、金物について調べ学習をしたりして、金物への予備知識はある。金物を作るためには、材料（玉鋼）が必要となる。この時代、玉鋼は出雲（島根県）など、中国地方を中心に作られていた。そこから、三条に持ってくるための手段を考えさせる。地図を用いて三条と島根の距離を考えると海路が出てくることが推測される。

次に、江戸で大きな火災が頻発したことで、和釘の需要が高まり、江戸に多くの三条和釘が運ばれたことを資料から捉えさせる。位置関係から考えると陸路や河川路が出てくることが推測される。そこで、様々なものや人を効率よく移動するために江戸時代の人々はどんな手段を使ったのかを学習課題として考えていく。予想としては、「大きな船を作る」「道を作る」「ものを運搬する仕事をつくる」などが考えられる。考える視点として、地図を用いた地理的な視点や既習事項を踏まえた歴史的な視点がある。全体で予想を共有したのち、「北前船」「五街道」「飛脚」などを取り上げ、流通網（交通網）のが発展し、広がっていく様子をスライドや教科書で調べさせる。

最後には、流通網（交通網）が整備・発達したことで、ものや人の行き来が盛んになったことをまとめさせる。そして、今後、「ものや人の行き来が盛んになったことで、人々の生活がどう変化したのか？」を、単元を貫く学習課題として設定していく。

(3) 展開

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価 ○支援
10	・「玉鋼」や三条で作られた釘は、どのように運ばれたのかを考える。	○これは何か。 ●岩 ●隕石 →「玉鋼」 →金物の材料 →「出雲産」と書かれている ○出雲からどうやって運ばれてくるのか。 ●人や馬で運んだのではないか ●重そうだから、人や馬ではなく船を使ってはこんだのでは… ○江戸での火災による家の再建で三条の家釘が重宝された。どうやって運ばれたのか。 ●これは、それほど重くないから、人や馬で運んだのでは… ●船だと、遠回りになるかも… ○江戸は100万人都市、大阪は商業都市として発展した。多くのものや人が移動していく。	○資料館にある玉鋼の写真を提示する。 ○地図帳で確認し、遠いことを実感させる ○スライドで、火事の様子や焼失した家の個数などを提示する ○和釘の実物を見せ、自分たちの経験を想起させる ○当時の江戸や大阪の様子が分かる資料（浮世絵など）を提示する
◎江戸時代では、ものや人が効率よく移動できるように、どんなことをしたのか？			
25	・輸送手段を考え、流通網（交通網）	○予想する（考える） ●大きな船を作ったのではないか	

	が整備・発達したことを捉える	<ul style="list-style-type: none"> ●道を新しく作った ●ものを運ぶプロ集団が生まれる <ul style="list-style-type: none"> ○航路の整備・発達 →北前船が作られ、大阪を中心とした航路が発達した。 ○街道の整備 →江戸を中心に、全国各地を結ぶ道が整備された。 とくに大きな街道が五街道（東海道、甲州街道、中山道、日光街道、奥州街道） →宿場・関所が設けられた ○飛脚の活躍 →江戸と各地を結び、書状や荷物を宿場ごとにリレーして届ける 	<p>思判</p> <p>効率よくものや人が移動する方法を地図帳などをもとに考えているか (発言、ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スライドで、北前船とルートを示す →出雲からは航路が利用されたことを確認する <ul style="list-style-type: none"> ○教科書P157の図で実感を持たせる ○スライドで五街道・宿場・関所を示す ○スライドで飛脚の様子を示す
10	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめと振り返りをする ・単元を貫く課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦陸路や航路が整備され、ものや人の行き来が盛んになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○江戸時代の旅行パンフレットや土産番付などの資料をもとに、ものや人の行き来が増えたことを実感させる <p>知技</p> <p>流通網（交通網）が発達し、ものや人の行き来が盛んになったことを理解しているか (発言・ノート)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>◎江戸時代、ものや人の行き来が盛んになったことで、人々の生活がどう変化したのか？</p> </div>			

(4) 評価

- ・ 金物の材料である「玉鋼」や三条で作られた和釘を効率よく運搬するための方法に着目し、地図帳などをもとに考えたか (ノート・発言・ホワイトボード)
- ・ 流通網（交通網）が発達し、ものや人の行き来が盛んになったことを理解したか (ノート・発言・振り返り)

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際 (本時)

まず、三条市資料館に展示してある「玉鋼（金物の材料）」の写真を見せ、出雲産（島根県産）だったことを知り、児童は地図を用いて遠くから材料が届いていることを実感していた。次に、江戸で大火事が頻発し、和釘の需要が高まったことを想起させた。そして、人口世界一の江戸、商業の街である大阪の絵を見せて、人や物が集中することを意識させ、本時のねらい「江戸時代では、ものや人が効率よく移動できるように、どんなことをしたのか？」を提示した。効率よく運ぶ手段を、はじめに個人で考えさせ、次にグループで検討させてから、ホワイトボードを活用し、全体で共有した。

考える際に、児童は地図帳やノートを見返し、既習事項をもとに考えさせたことで、「船」「リレー方式」「馬・牛」「大名行列」などの意見が挙がった。意見を集約したあと、実際はどうだったのかを「航路の整備（北前船）」「街道の整備（五街道）」「飛脚」の3つをスライドや教科書で確認し、人やものを効率よく運搬する方法が様々あったことをまとめた。

最後に人やものの行き来が盛んになったことを「旅行パンフレット（江戸時代）」や「土産物番付」などを資料として提示し、単元を貫く「◎江戸時代、ものや人の行き来が盛んになったことで人々の生活はどう変化したのか？」を教師側から提示して授業が終了した。

(2) 研究テーマについて

研究テーマに関して、成果と課題を検討するために2つの評価を実施した。

① 学習問題に対して、考えをノート等を書くことができたか？

この項目について、本時では児童全員（100%）が効率よく人やものを運ぶ手段を考え、ノートを書くことができた。また、単元を通して、自分の考えを書けている児童が20名（91%）であった。これは、自分の考えをノートに書くことを、本単元以外でも年間をとおして実践してきた学習の積み重ねによって、考えを書くことができる児童が多くなったと考える。また、本時では、地図帳やノートなど、考えの視点をもつための資料があったことも1つの要因である。本実践を通して、考えを持つためには、社会的な見方・考え方を働かせるための資料の必要性を改めて感じた。

② 考えの理由を示す際に、社会的な見方・考え方が働いているか？

この項目について、本時では22人中18人（82%）の児童が考えの理由を示す際に、社会的な見方や考え方を働かせていた。具体的には、「船」と考えた児童の中には地図帳をもとに「島根は遠いから…」と地理的な視点を働かせ、考えを書く児童の姿がみられた。また、「大名行列」と考えた児童は学習してきたノートをもとに「2000人もの人たちが移動しているから、荷物を運ぶもの楽なのではないか」と前の学習と結び付けて考えることができた。こうした事実から、地図帳やノートなど、考える資料があることが社会的な見方・考え方を働かせるためには大切であると考えられる。

しかし、本時では4人（18%）が、社会的な見方や考え方を働かせて理由を示すことができなかった。考えられえ原因は、資料の見方や既習事項との関連付けの不十分さである。手元には全員、同じ資料が届くが、理由を書けない児童は、それをどう見たらいいのか、どう関連付けたらいいのか分からない。本時では、こうした児童の見取りが甘く、教師からの支援ができていなかった。こうした児童の様子を的確に見取り、個別に支援したり、全体への指導・支援を行ったりする必要がある。

社会的な見方・考え方を働かせるためには、資料が欠かせない。資料の読み取り方、資料同士・資料と既習事項の関連付けは、授業の中で指導し、積み重ねが必要である。今後の授業で意識していきたい。

(3) 今後の課題

本時を含めて、これまでの実践の多くは「教師が教える」社会科になっていた。本時も、効率よく運搬する方法を考えると、児童に考えさせたり、それぞれの意見を共有させたりする時間を設けたが、大部分は教師が教え込む時間になっていた。もっと児童が考え、深く学ぶ時間を作ることが必要だと感じた。本時であれば、航路の整備・街道の整備などを確認した後「最初に示した出雲産の玉鋼はどっちだったのか？江戸まで和釘を運ぶのに使われたのはどっちだったのか？」を資料の活用を通して考えさせることもできた。

確かに「教える」ことも必要である。しかし、それだけでは「主体的・対話的で深い学び」には繋がらない。教えたあとに、児童が自ら「学ぶ」時間を確保することが必要である。そのために、今回の実践で意識した「発問」や「資料の内容・提示の工夫」を生かしていきたい。

また、今回、同じ社会科グループでの意見交流を通して、多くのキーワードが出てきた。

「振り返りの在り方」「意見交流のさせ方」「ワールドカフェ方式」「意見の収束のさせ方」「妥当性・共通性」「立場」「ズレ」「体験のメリット・デメリット」「子どもの問い」「◎が2つあった場合の手立て」「SDGs」「ゴール→課題・ねらい→資料」「予想と意見」「経験と事象」「工夫・努力とは」…

これだけのキーワードが議論の中で出され、意見交換することができた。全てを完璧に理解し、授業の中で意識していくことは難しい。しかし、自分の実践をいろいろな角度から見直すための指標となる。来年度に向けて、自分の課題はもちろん、ここに出されたキーワードも意識しながら、今年度よりもレベルアップした実践ができるようにしていきたい。

【参考資料】

『小学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省 日本文教出版 2018

『宗實直樹の社会科授業デザイン』 宗實直樹 東洋館出版社 2021

『社会科でまちを育てる』 長瀬拓也 東洋館出版社 2021

『2030年の学校教育 - 新しい資質・能力を育成する授業モデル』 西村徳行・柄本健太郎 明治図書 2021